令和6年度宇部市隣保館運営審議会 会議録

1 日時 令和7年（2025年）2月20日（木）18：25～19：30

2 会場 宇部市隣保館上宇部会館 別館2階

3 出席委員 12名

厚南部会 有田豊生、目 睦雄、新谷弘昌、竹本美香、中谷祐二郎、
西田 博、松永宜夫

上宇部部会 赤間順子、池富士淑江、川本文雄、白木優子、日高隆子

4 事務局

市民環境部 人権・男女共同参画推進課

隣保館厚南会館館長

清水 好恵

隣保館上宇部会館館長

榊富 一之

隣保館厚南会館副館長

中村 浩文

隣保館上宇部会館副館長

中山 優子

隣保館厚南会館主査

糸永 善之

教育委員会 人権教育課課長

山本 敏夫

人権教育課主幹

志馬 公二郎

5 会議次第

(1) 開会のことば

(2) 隣保館上宇部会館館長あいさつ

(3) 委員紹介及び担当職員紹介

(4) 委員長及び副委員長の選任

(5) 委員長あいさつ

(6) 議題

① 令和6年度事業実施状況報告について

② 令和7年度事業計画（案）について

③ その他

(7) 閉会のことば（隣保館厚南会館館長）

6 会議概要

(1) 委員長及び副委員長の選出

委員長 日高 隆子 委員（上宇部）

副委員長 西田 博 委員（厚南）、白木 優子 委員（上宇部）

以上のとおり選出される。

議題（１）令和６年度事業実施状況報告について

<資料P 2～8により厚南会館館長、上宇部会館館長の順に説明>

○ 委員からの質問、意見等なし。

議題（２）令和７年度事業計画（案）について

<資料P 9～12により厚南会館館長、上宇部会館館長の順に説明に説明>

(委員)

私が今日一番残念に思っているのは、市長が会議に参加しておられないこと。

昔は、市長が会議に参加されていた。隣保館運営審議会が軽んじられているように感じる。

隣保館は、もともと全国に1,200館あったものが、4～5年前には800館ぐらいに減っている。また、併設されているふれあいセンター（公民館）との兼ね合いもはっきりせず、隣保館をどうしたいと思っているのか見えてこない。私の住んでいる地域でも、地元の方と外から来られた方の混在が増えており、地元の方は半分ぐらいしかいない。そのような中、隣保館があることで、差別が生まれている現状もある。それならばいっそ、ふれあいセンターに一本化し、コミュニティセンターとしての役割に絞った方が良いのではないか。

他県で、教員が購入した土地が被差別部落にあったため、業者に売買契約の取り消しを求めた件が大きな問題になっていた。隣保館ができて、半世紀にもなるのに意識啓発が進んでいない。活動もマンネリ化しているように見受けられ、説明をお聞きしても、昨年との違いや、これからの展望が見えてこない。隣保館の現状や展望を、しっかりトップ（市長）に投げかけて欲しい。

隣保館の館長も次々と代わり、市が隣保館をどうしたいのか見えてこない。小言のようになってしまったが、しっかりと考えて欲しい。

議題（３）その他

<事務局からは特になし>

(議長)

他に委員の方から、意見等はございますか。

なければ、これで会議を終了したいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

せっかくの機会ですので、皆さんから一言ずつでも頂きたい。

○全般を通して意見等

(委員)

先ほどの委員の投げかけに対するお答えをお聞かせ頂きたい。

(事務局)

市長の出席については、ご意見として頂いておく。

隣保館は、ふれあいセンターと併設されることで、市民の方に親しみを感じて頂けていると思う。

事業のマンネリ化については否定できないが、例えば児童館事業の対象を、小学生から中学生までに広げたり、小さな変化かもしれないが、一歩ずつ着実に進めていきたいと考えている。

啓発については、会館職員のみで行うのは難しいため、隣保館運営審議会委員や、地域の団体等の御協力を仰ぎながら、またそのような方々が集まる場を利用させて頂きながら、啓発を図っていければと考えている。また、地区内に学校が多くあるので、各学校とも協力しながら啓発活動を進めていきたい。

(委員)

上宇部の実施事業であるデイサービス事業やこども食堂について、これらをマンネリととらえる見方もあるかもしれないが、一方で今年度も継続して実施ができたということは、素晴らしいことだと思う。

厚南の児童館事業についても、小学生だけが対象だったところ、中学生まで対象を広げられ、それは少しの変化かもしれないが、すごいことだと思う。

大きな変化はなかなか難しいが、小さな変化を少しずつ取り入れながら、継続して事業を実施していくということが大切だと、会議を通じて感じた。

今後ともよろしく申し上げます。

(委員)

人権教育推進委員として、皆さんが人権についてどのような考えをお持ちなのか、どのような講師を呼べば、皆さんが人権についてより深く考える機会となるのか、また、ヒューマントーク太陽も、毎月色々なことを考えながら講師を呼んだり、啓発DVDの観賞をしたりしているが、実際に参加して頂ける人はすごく少ない。私たちも一生懸命にやってはいるが、なかなか参加者は増えない。どうしたら良いのか、何をしたら良いのかいつも試行錯誤している。

館長や副館長も、毎回勉強会に参加され、一緒にどうしたら良いのか考えているが、なかなか思うようにはならない。これからもどうしたら良いか考えていきたいと思う。

(委員)

P 7の上宇部会館のその他事業の(2)、こども食堂の支援は、今とても大切な事業だと思う。

厚南ではまだやっていないので、このような事業も取り入れていければ良いなと思って発言させて頂いた。

(議長)

こども食堂について御説明を頂きたい。

(委員)

2年半前にこども食堂を立ち上げ、最初は30人ほどの参加だったが、今は64人。実施場所がなく、どうしようかと思っていたが、上宇部会館の方から協力の申し出があり、大変助かった。こども食堂の日は、会館のほとんどの部屋を使わせて頂いているため、子どもたちは学校が終わったら、みんなで会館で勉強したり、遊んだり食事をしたりすることができている。

また、うちのこども食堂の大きな利点は、地域のみまもり隊が、学校から上宇部会館まで子どもたちを連れてきていること。会館にはたいへんお世話になっている。今後もよろしくお願いします。

(委員)

上宇部は小学校が1つだが、厚南は3つ、4つある。上宇部は1校区だが、厚南は4つ校区があり、みなみかぜは3つの校区で実施している。

運営の仕方を今後どのように考えているか。

(事務局)

厚南は元々1つの地区だったが、人口の増加に伴い、学校区が増えて行った歴史がある。現在の厚南は、厚南地区としても活動しつつ、大きくとらえれば元々1つの厚南の地域に入る西宇部や黒石も、一緒に活動していきたいと考えている。

各校区の人権教育推進委員も協力して下さり、様々な企画や会議での御意見を頂いている。小人数より多くの方がアイデアを出す方が良いものが生まれるのではないかと考えている。

大きく厚南で、みんなで一緒に活動しつつ、各地区でも独自の方法で活動して頂く、3地区、4地区でも活動する、そのように活動していきたいと考えている。

(委員)

隣保事業をしていく上で、上宇部は1校区だが、厚南は学校区が違うため、それぞれの学校区に別々のふれあいセンターがあるが、隣保館は1つで複数の校区を兼ねている。隣保事業は福祉事業であり、ふれあいセンターは、コミュニティ活動、昔の公民館活動がメインであると思うが、隣保館の意図がはっきりしない。

人権だけでなく、色々なことをしておられるが、どれもふれあいセンター事業と変わらない。もっと隣保事業の根本的なものを、せつかく半世紀にもなる審議会なのだから、掘り下げて、3年後、5年後には隣保館は不要となるほどしっかり検討すべき。隣保館は、1,200館が800館に減少している。どんどんふれあいセンターになっていっており、また、隣保館があることで差別を生む現状になっている。そのことをしっかり考え、住民同士のふれあいができる仕組みを作っていって欲しい。

(委員)

上宇部のヒューマントーク太陽は歴史が大変長く、同和問題についてももしっかり話し合いを行い、研究の場であり、住民の交流の場にもなっていると思う。参加者が減少しており、大変少ないという現状はあるが、皆さんに聞いていただきたい企画を考え続

け、継続してやり続けていくことが大事な要素であると思う。

この度、隣保館運営審議会の委員の皆さんや行政の方とこのような場でお話できたことも、第一歩であると思う。厚南の皆さんも、是非上宇部のヒューマントーク太陽にも足を運んで頂き、皆さんと一緒に考えることができると良いと思う。一人でも多くの方が会に参加され、参加の皆で人権問題について考えること、また、考える時間を共有できることが、これからの人権問題を考える上での重要なポイントとなると思う。

(委員)

他市や他県の隣保館の優良事例について、私たちは情報がなく良く知らないが、行政は全国の隣保館の協議会等様々な会に参加され、情報を持っていると思う。しっかり研究をされ、良い所は取り入れて行って欲しい。

この半世紀で何も変わっていない。

隣保館運営審議会のメンバーも新しい方がおられるので、新たな視点で考えていって頂ければと思う。

(議長)

その他、ありましたらお願いします。なければ、終わりたいと思います。

ありがとうございました。これで、議長の任を解かせて頂きます。

皆さんのご協力、ありがとうございました。